

# 川西ダリヤ



## 川西町の花「ダリヤ」

川西町は、町のシンボルとしてダリアを町の花に定め、明治・大正時代に地域で呼んでいた「ダリヤ」の呼び名による町づくりを行っている。町は昭和初期、宿場町として栄え、農業の知識のある商人がいたことから、当世人気だったダリアの栽培が盛んであった。昭和35年には当時日本で唯一のダリア園「川西ダリヤ園」が誕生した。平成11年に場所を移してリニューアルし、栽培面積4haもの敷地で開園している。

現在、川西ダリヤ園の来訪者は年間6万人を越え、栽培するダリアは650品種、10万本と国内でもトップクラスとなっている。

栽培は、町内の「川西町ダリヤ会」を中心に小学校等でも行われ、町内各地で色鮮やかな花を見ることが出来る。また、パンなどの食品やブローチなど、さまざまな商品の開発、販売も行われている。特に切り花については、近年、都市部で人気が出てきており、より日持ちするような品種改良が進められている。今後、町では、ダリアサミット等を通じて、さらに「ダリヤ」の普及を進める。

川西ダリヤ園内の様子



## 「ダリア」とは？

キク科の植物で、アメリカ大陸中央部の高山地帯が原産地である。花の形、色彩等で多数に分類されており、全世界で3万種類以上存在すると言われている。



ブラジルでの栽培指導の様子  
(写真左が五十嵐さん)



## ダリアで世界と交流

ブラジルサンパウロ州スザノ市  
インペランジアホームダリア園での交流



五十嵐 正孝さん  
昭和 63 年 4 月にダリア栽培技師として、川西ダリヤ園で働き始める。父の孝一さんの代からの川西町ダリヤ会のメンバー。

### ダリア栽培指導にブラジルへ

川西町には、海外で栽培技術指導をするほどのダリアづくりのプロがいる。五十嵐正孝さんだ。ダリアの美しさ等を競う、「東北ダリア名花展」では、唯一親子二代で最高賞である農林水産大臣賞を受賞している。

ブラジルの高齢者養護施設「イペランジアホーム」には、川西ダリヤ園との姉妹ダリア園がある。川西町出身の方の援助により発足し、平成 26 年で 20 周年を迎えたことを機に、川西町に栽培指導を要望した。

町は、川西ダリヤ園で栽培技師として働き、「川西町ダリヤ会」の会長を務められていた五十嵐さんが適任と派遣を決定した。こうしてブラジルで 2 カ月間の栽培指導にあたることになった五十嵐さんだが、現地のダリア栽培方法の違いに驚かされた。日本では雨風や害虫が多く、切り花や品評会等で個別の花を楽しむことが多いため、一本一本に時間をかけて管理している。しかし、ブラジルは日本と異なり、雨風や害虫が少なく、花畑の全体を見て楽しむ方が多いため、日本ほど一本に時間をかけてない。

五十嵐さんは、「長くやっている、良いことも悪いこともある」と振り返り、多くの方々と交流したブラジルでの経験は、とても「良いこと」だったようだ。

### 川西ダリヤ園でダリアを見よう



- 開園期間  
8月1日～11月4日 午前9時～午後6時  
(10月以降は日没で閉園)
- 入場料 <未就学児無料>  
大人 540 円、小人 (小学生) 210 円  
団体料金 (20 名以上) 大人 430 円、小人 170 円
- 所在地  
山形県東置賜郡川西町上小松 5095-11
- 問い合わせ先  
川西ダリヤ園 TEL : 0238-42-2112